

(事後評価)

## 山形ワークライフバランス・イノベーション

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：山形大学（総括責任者：結城 章夫）

### プロジェクトの概要

男女共同参画推進室及び男女共同参画推進委員会を中心に、男女共同参画基本計画に基づき、①意識改革（学長等と女性研究者の懇談会、セミナー・シンポジウム開催、アンケート実施公表、広報活動）、②研究と育児等の両立支援（託児サポーター制度設立、就業規則周知徹底、育児休業取得者のいる組織へのインセンティブ付与、育児休業取得男性及び女性研究者の夫が育児休業を取得した場合の支援、育児休業中の非常勤講師確保、会議負担の軽減検討、ユビキタス・ワーキング・システム構築、巡回相談員・研究支援員・メンターの配置、子育て期の学会出張支援等）、③女性研究者裾野拡大（キャリアパスの探索、ロールモデルとの交流、女子中高生向けセミナーや女性研究者による出前授業等）に取り組む。

### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進宣言に則った基本計画の策定等により男女共同参画を全学的に推進し、女性研究者のニーズを踏まえた支援を実現したことが評価できる。県内の高等教育機関と連携し、地域における男女共同参画の推進にも貢献した。さらに、女性教員比率の低い部局が、独自に女性教員採用目標を設定している点も評価できる。

・**目標達成度**：女性研究者のニーズ調査を徹底し、ニーズを踏まえた支援を実施し、さらに、女性研究者の採用促進に向け精力的に取り組み概ね目標を達成したことは評価できる。

しかしながら、女性教員採用比率の数値目標の達成、男性の育児休業取得、子育て期の学会出張時の保育支援制度の整備が十分ではなく、改善策の検討を期待する。

・**取組の内容**：女性研究者支援のための取組が適切に実施されており評価できる。支援員制度、NPO 法人と連携して実施した学生による託児サポーター制度は実効性の高い取組であった。

・**システム改革の成果**：自然科学系における女子学生比率が増加するなど、女性研究者の裾野拡大において成果が見られた。さらに、女性教員の離職率の低下や研究活動の活性化として成果が表れている。学生による託児サポーター制度は、他機関に波及し得るモデルとなる取組として社会に発信されており評価できる。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、男女共同参画の推進及び女性研究者支援を大学の最重要課題として取組を進めており、女性教員比率の低い部局が積極的に女性教員の採用促進に取り組んだ点が評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：女性研究者支援を継続するための体制が整備され、予算も確保されており、取組の継続が期待できる。具体性のある女性教員増加策の策定を期待する。